

授業作り	重点	個に応じた指導の充実を図るとともに、児童の表現力を高め、児童相互の学び合いを中心とした主体的、対話的で深い学びをつくる指導方法の在り方を探る。
環境作り		ユニバーサルデザインに配慮し、全ての児童が主体的、対話的で深い学びを行うことができる学習基盤をつくる。学習や生活ルールを統一し、全ての児童が安心して学習に臨める環境作りを目指す。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学年		・文字を正しく記述し、語句の意味を捉えて表現できる力を育成する。また、個々の学習意欲を高め、読む活動を充実させる必要がある。 ・数の構成の特徴を理解させ、加法・減法などの基礎基本の定着を図る。 ・分かったことや気付いたことを自分なりの言葉で表現する力を高める必要がある。	【全教科】 ・プリントによる繰り返し学習 ・ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫 ・デジタル教科書やタブレット端末などＩＣＴ機器の活用 【国語】 ・教科書の音読や音読カードの活用 【算数】 ・具体物を操作する学習の充実
2 学年		・漢字学習に関心が高く、新しく学ぶことへの意欲を感じる。しかし、既習の漢字を文章の中で使ったり、正しい筆順で書いたりすることに課題が見られる。また、拗音、促音を正しく使って文章を書いたり、書いた文章を読み直して、間違いを直したりすることには課題がある。書く活動を日常的に取り入れ、個別に指導を行う必要がある。 ・加法・減法の計算はおおむね身に付いているが、繰り上がり、繰り下がりのある計算につまずいている児童が見られる。反復練習を行い、基礎基本の計算の定着が必要である。 ・話したり聞いたりすることを好む児童が多いので、授業中に対話的交流の場を多く取り入れる。また、自分の思いや考えを明確に話することができる力の育成が必要である。	【全教科】 ・デジタルドリル等を活用した繰り返し学習 ・ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫 【国語】 ・教科書の文章や詩の視写、教科書の音読 ・週末の日記の課題 【算数】 ・日々の基礎的な計算練習

3 学 年	学力調査の結果から、国語科、算数科ともに、区平均程度か平均以上の正答率で、全体的には高い学力定着の状況が伺える。 一方、両教科とも、A層とD層の正答率の乖離が顕著であることから、D層の児童に個別の支援を行い、基礎基本の定着を図る必要がある。 【国語】 文章の読み取りについて、A層とD層の差の開きが大きい。 【算数】 D層の文章問題の立式や3位数－2位数の繰り下がりの引き算につまづきが見られる。	【国語】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、それらを会話や文章の中で使い、語彙を豊かにする。 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える力を伸ばす。 ・相手を見て話したり聞いたりさせることをとおして、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す力を高める。 【算数】 ・四則計算、図形、数量関係について知識・理解のさらなる定着を図る。 ・課題解決の方法を考え、図、式、言葉などで表現する力の育成が必要である。	【国語】 ・授業での音読活動や音読カードの活用 ・漢字ドリルノートの活用 ・漢字のミニテストの活用 ・丁寧な文章の読み取り 【算数】 ・習熟度別指導を活用した、個に応じた指導の充実 ・算数スキルノート、プリント、デジタルドリル等を用いた繰り返し学習 ・各単元の終末に、児童の理解度を把握するための定着度テストを実施
4 学 年	【国語】 知識・技能は高いが、思考・判断・表現の定着は低く、特に、書くことについては区平均を大きく下回っている。全体的な基礎基本の定着と、D層の児童への支援が急務である。 【算数】 知識・技能、思考・判断・表現ともに区平均を上回っているが、領域別で見ると、「数と計算」領域で少し課題が見られる。どちらの教科もD層の児童が学年全体の25％程度いるため、丁寧な個別支援が必要である。	【国語】 ・読書を好み、集中して読むことができる児童が多いため、物語文における読解力は高い児童が多い。読書活動や国語科の授業を充実させ、読解力のさらなる伸長を図る。 ・前学年までに学習した漢字を読むことはできるが、既習の漢字を使って文章を書くことには課題が見られる。 【算数】 ・繰り上がり、繰り下がりのある計算につまづいている児童が一定数いる。桁数の多い乗法の計算では計算ミスが見られるため、位数の意識を高め、確実に計算する力を高める必要がある。	【全教科】 ・児童の集中を高めるための多様な学習形態の工夫 【国語】 ・既習の漢字を活用することを意識させた、日常的な短作文の実施 ・漢字ショートテストの定期的な実施 【算数】 ・デジタルドリル及び紙ベースの計算ドリルの活用 ・習熟度別指導を活用した、個に応じた指導の充実 ・各単元の終末に、児童の理解度を把握するための定着度テストを実施

5 学 年	学力調査結果では、国語科、算数科において、区の平均を上回っている。しかし、2割程度の児童がどちらの教科でも学力の定着を図れていないことが分かる。 【国語】 自分の意見や考えを整理し、記述することに課題がある。 【算数】 「数と計算」では数値が高く正答率がよいが、「変化との関係」の分野においては、全体的に平均的な水準であり、他の分野と比較すると課題が見られる。	【国語】 ・ 目的に合わせて自分の意見や考えを表現する力の育成が必要である。 ・ 自分とは異なる意見や考えに触れ、改めて自分の考えを見つめ直す経験を積ませる。 【算数】 ・ 四則計算や、図形、データの活用の仕方を知り正しく理解している。 ・ 自力解決で解法までの過程を論理的に順序立て説明することができる。	【国語】 ・ 日常的な作文と読書の推進 ・ 語彙を増やすための言葉調べや熟語の意味を広く知る活動の設定 ・ 話し合い活動や意見文の読み合い等の、考えを交流する活動の設定 【算数】 ・ 家庭学習を含むデジタルドリル等の効果的な活用 ・ 授業の終末におけるふりかえり活動の充実 ・ 各単元の終末に、児童の理解度を把握するための定着度テストを実施
6 学 年	【国語】 知識・技能の中でも、特に「言葉・情報・言語文化」や「話すこと・聞くこと」の定着は高い。一方で、思考・判断・表現の、特に「書くこと」や「読むこと」の定着が低い。学力層の推移の分析から、学年の3割程度の児童が、学力の定着が十分でないことが分かる。 【算数】 全国と比べても思考・判断・表現の「変化と関係」や「データの活用」に関する数値が高く、一方で「図形」分野に課題が見られる。また、国語と比べると、知識・技能の正答率が低い。学力層の推移は8割近い児童に定着が見られるが、2割の児童の正答率が非常に低いことが分かった。	【国語】 ・ 自分の考えを論理的にまとめ、書く力を高める必要がある。 ・ 複数の文章や知識を比較したり、関連付けたりしながら読み、自分の考えや事象の特徴を説明する力の育成を図る。 ・ 友達と考えを交流することをとおして、自分の考えを広げたり深めたりする経験を積ませる。 【算数】 ・ 割り算や分数、図形の計算方法や特徴を正しく理解させる必要がある。 ・ 解法のプロセスを順序立てて書く力の育成を図る。	【全教科】 ・ 児童の体験や経験、既習事項と関連付けた導入や展開の工夫 【国語】 ・ 日常的な読書活動の推進 ・ 文字数を指定した書く活動の設定 ・ 複数の文章を対比したり、関連付けたりしながら読む活動の設定 【算数】 ・ デジタルドリル等の活用 ・ 授業の導入時に、前時のふりかえりを実施 ・ 各単元の終末に、児童の理解度を把握するための定着度テストを実施